

松村 菜穂美  
福井大学 助手

## 要介護者の痴呆度と寝たきり度別、介護サービス事業の定量的人員配置の検討

要介護者の生活上の介護量を確保するため、どんな介護サービスの人員配置をすればよいのかという検討のために、認知症デイケアにおける利用者である要介護者の個別的介助量を測定し、要介護者の認知症度と寝たきり度との関連を検討した。介護は、要介護者の日常生活動作に寄り添いながら行われることから、要介護者の動作およびスケジュールごとの介助回数と所要時間および介助内容や自立程度にあわせた介助種類について分析を行った。その結果、以下のようなことが明らかとなった。

1. 介護量確保を目的に人員配置を考える場合、個別的介助量に合わせた実スタッフ数を検討する必要がある。それには、介助の回数と所要時間および介助内容の種類数など、頻度とその量および技量の多さについて検討する必要がある。それと同時に、要介護者の介護量のばらつきには、認知症度・寝たきり度との関連性があり、介護量確保にはその関係を重視する必要がある。
2. スタッフに求められる介助内容には、標準的な介助内容がある。動作およびスケジュールでは、標準的に、移動動作と整容動作、コミュニケーション、IADL および認知症ケアについて求められていると考えられていた。
3. 要介護者の自立に合わせた介助を考える場合、介助の種類について、吟味する必要がある。また、認知症度・寝たきり度の重度化に伴い、その介助の種類についても提供方法を変更する必要がある。

本論文のように、標準化されたスタッフによる介助量の検討が重要であった。